

## Nature 黒川の里山を 自然の博物館に

「トンボ池」などで自然観察体験

みんなが笑顔になる場所に



市民活動グループ「身近な自然とまちを考える会」  
事務局長 石津容子さん

「最近はずいぶん子どもの理科離れが進んでいるというのをよく耳にします。教科書や図鑑だけで見るものが多くなると、実際の体験が少ないからなんだと思います」そう話すのは、市民活動グループ「身近な自然とまちを考える会」事務局長の石津容子さん。

約17年前から猪名川の水質や水生生物の定点調査をしてきました。

「2年前、黒川の休耕田を見て、ここに水を引いたら、子どもたちが自然観察できる場をつくれるんじゃないかと思っ、トンボ池をつくったんです」

自然観察体験を通じて、黒川の里山の素晴らしさを体感してもらい、「ふるさと川西」への愛着を深めてもらおうと、市が募集していた市民協働事業補助金に手を挙げたそうです。

「できることは全て自分たちの手でやりました。休耕田一面に生い茂った草を抜いたり、電車の枕木を譲ってもらい観察用の通路を作ったり、また、補助金を活用して啓発用の案内板を設置したりと、とにかく大変でした。けれど、

子どもたちが目を輝かせて観察する姿を想像すると、それも苦ではなかったですね」石津さんはそう話します。

「水を入れると、どこにこれだけいたんだろと思うぐらい生き物たちが姿を見せ始めました。コオイムシやツチガエルなど、まちでは見かけない珍しい生き物や、秋にはトンボの飛び交う姿を見ることもできるんですよ」

月に1、2回は、定点調査を兼ねた観察会を開いていて、多いときには100人以上が参加することも。

「観察会では、生き物の知識を持ったメンバーが、その場で詳しい説明をするんです

よ。実際に見たり、触れたりすることで、理解が早かったり、より深まるように思います。夢中になっている子どもたちの生き生きとした顔を見ると、うれしくなりますね。子どもよりも、おとなの方が夢中になっている親子もよく見かけますよ」

今後は、黒川一帯のロケーションをネットワーク化し、自然の博物館のようにできれ

ばと石津さん。「黒川地区には豊かな自然があります。子どもたちがふれあい、体験学習できる場を提供すれば、ふるさと川西に誇りと愛着を持ってもらえるのではないかと思います」



## いちじくカレー 川西特産いちじくを使った特別メニュー

おとな子どもも  
食と育つ  
健康づくり室  
Tel (758) 4721

レシピ提供：大阪青山大学

- 材料（4人分）
- いちじく ..... 5個
  - 牛バラ肉 ..... 240g
  - タマネギ ..... 中3個
  - リンゴ ..... 1/2個
  - ショウガ ..... 1片
  - ニンニク ..... 1片
  - カレールー（市販） ..... 4皿分
- 熱量（1人分）：860kcal、塩分：1.5g

- 作り方
- いちじくは皮をむき1斜角に、牛バラ肉は3～4斜のざく切り、タマネギは薄切り、リンゴはすりおろし、ショウガとニンニクはみじん切りにする。
  - 鍋に油大さじ2を敷く。ショウガとニンニクを入れ、タマネギをあめ色になるまで炒める。
  - 水550mlと牛バラ肉を入れ、火が通ったら弱火にしてカレールーを入れる。
  - いちじくを入れて軽く火を通したらリンゴを加える。ひと煮立ちさせたら出来上がり。

消費生活センターだより  
Tel (740) 1167

## 無料点検から高額リフォーム契約

不安をあおって契約を迫る  
契約する前によく検討を

事例 「排水管の無料点検をします」と電話があったので来てもらった。会員になると排水管洗浄が無料になると勧められ、月3,000円の会員契約をした。数日後、担当者が無料点検に来て床下にもぐり「大変な事になっている。このままだと家が傾く」と床下の写真を見せられた。また「風呂場もタイルの下がスカスカだ」と言われたので、床下補強と風呂場のリフォーム工事数百万円の契約をした。工事が終わると、今度は屋根工事を勧められた。支払いが高額になってきたので不安になった。どうすればいいか。（70歳代男性）

リフォーム工事を訪問販売で契約した場合、工事が終了していても、契約書面を受け取った日を含めて8日以内であればクーリング・オフができます。相談者の場合はクーリング・オフ期間が過ぎていましたが、センターから「事業者の販売方法に問題があったのではないかと指摘し、話し合いの結果、減額で解決しました。

リフォーム工事は高額です。契約する前に①見積もりを複数取る②事業者と話したことを記録に残す③必要性を検討する一などが重要です。また、訪問販売など不意打ち性の高い勧誘の場合、その場で契約しないことが大切です。

住まいに関する相談窓口  
ひょうご住まいサポートセンター（県住宅建築総合センター）  
Tel 078 (360) 2536  
住まいるダイヤル（住宅リフォーム・紛争処理支援センター）  
Tel 0570 (016) 100  
※リフォーム見積書の無料チェックも行っています

人権啓発シリーズ  
生きる  
人権推進課  
Tel (740) 1150

## オープンハートで個性を生かす

心を開いて語り掛ける  
一人ひとりの個性と感性が輝く

今回はちょっと一息入れて、実りの秋に、趣味の話です。私は、法教育の他にも、好きで長く続けていることがあります。それは、中東の踊り「ベリーダンス」です。7年前に始め、最近ではレストランなどでも踊らせてもらっています。この踊りについて、若い女性があでやかに舞う、というイメージをお持ちの人もいるかもしれませんが、さにあらず。

さまざまな経験の中で感じた切なさや喜び、苦しみ、悲しみなどが表現の深みとなる、おとなだからこそ魅力が増す、奥の深い踊りです。どれだけ豊かに年を重ねたのかが端的に表れます。そして、高度なテクニックがあっても、独りよがりで押し付けがましい踊りはノー。今のこの自分をゆったりと肯定し、踊り手の側から外に向かって心を開き、柔らかく語り掛けるような、体からメロディやリズムが聞こえてくるような踊りが最高。そんな踊り手は、見る人の心をわしづかみにします。この踊りのもう一つの特徴は、スリムでも、ふくよかでも、それぞれの良さがあ、皆が自分をありのまま肯定できること。踊り手一人ひとりの個性と感性が輝く踊りなのです。

踊り手それぞれの多様性がすてきなベリーダンスと、子ども一人ひとりが自分の考えを表現し、伝え合うことを大切にする法教育。私はどちらにも強く引かれ、長く取り組んでいます。このエッセイが皆さんの手元に届くころには、中高生向けの法教育の夏のイベントも無事に終了していると思います。次号ではそれらを紹介します。

（弁護士・元川西市子どもの人権オンブズパーソン 勝井映子）  
【人権標語入賞作品「つたえよう うれしい気もち いやな気もち」小学校2年】